

地元活性化探究プロジェクト

～Explore our local community and ourselves～

Vol.21 に引き続き、SDGs交流会 with 地域人材+教員の振り返りを掲載します。今回は、開発目標 8、9、10、11、12（経済分野）を取り上げます。

グループ① ファシリテーター 境 あさひさん

課題

- 1 働き方改革で中津川市はどんな取り組みをしているか
- 2 働きがいとは何か。どう得るか
- 3 地元の経済成長を促進するためにはどうしたらよいか

調査結果

1. 中津川市働き方改革推進アクションプラン→ワーカーサポートセンター、セミナー、男女共同参画プラン
2. 働きがい＝お金→これだけでは目的を見失いかねない
3. 特産品などについて地元の人しか知らないことが多い

まとめ

1. 働き方改革などの知識が現段階では不足しているので、今後もリサーチを継続し、自分たちが社会にでたとき、もっと良くなるように変えていく
2. 仕事を選ぶとき、お金だけではなく、どう自分の好きなことや得意なものを生かせるか考える
3. SNS などでも地元の特産品などを広く紹介し、地元以外のひとにも認知してもらうきっかけをつくり、外からの流れを作る

8 働きがいも
経済成長も



グループ② ファシリテーター 田口 文音さん

課題

持続可能な経済成長
労働者への待遇
若者の就職の現状

情報

地域の仕事について知らない人が多い。観光客をもっと呼び込まなければいけない。男女の雇用の差や働くことができない人への差別などがまだ課題として残る。失業率が高く、働きがいのある仕事を見つけられない。



- ・地域に住む私たちがまず地域についてよく知る。そしてそれを知ってもらう。アピールをする。パンフレットやポスターなど
- ・パートやアルバイト、障がい者の労働に対する考え方を変える
- ・若者に対して地域のプラスのイメージを発信する→地元への就職率アップにつなげるイメージや予想で偏見をもたない。思いやりの心や相手を思う気持ちをわすれない。

8 働きがいも
経済成長も



続き

私たちにできること

地元の良さをアピールし、たくさんのひとに知ってもらう
イメージや予想で偏見をもたない。思いやりの心や相手を思う気持ちをわすれない。



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



グループ① ファシリテーター 曾我 日菜乃さん
すでに基盤はあるので、そのうえでどうしていくか

課題①

特に若者が地域の産業について知らない



私たちにできること

にぎわい 1 階にある展示コーナーがうまく利用されていないので、多くの若者の興味をいくものに変えていく

課題②

災害時、地域のインフラを守るには地域の人々が協力する必要あり



私たちにできること

地域の強みや技術を利用する

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



グループ② ファシリテーター 柘植 哲司さん

課題

中津川市の産業に魅力を感じている人が少ない

情報

技術進歩が活発な国は製造業が発達している
中津川市の就業者数は製造業が最も多い

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



続き

分析

- ・中津川市は産業の基盤がつくられていると考えられる。しかし、中津川市だからこそできる産業をしていく必要あり
- ・中津川は観光客が多いので、観光業にもっと力を入れる
→例えば SNS などを利用し、今よりも PR する

結論

こうすることで産業はもっと発展していき、中津川としての魅力が生まれてくると考えられる。

グループ① ファシリテーター 安田 勇斗さん

課題

障がい者との不平等をなくす

情報

- ・中津川市 平成 26 年度の障がい者の数 4979 人

↓

暮らしやすくするためにはバリアフリーの設置
偏見をもたず接することが大切

- ・障がい者との接し方・・・声をかけたり、腕などに触れて安心感をあたえる

私たちにできること

バリアフリー設置の手助けとして募金活動を行う

10 人や国の不平等をなくそう



グループ② ファシリテーター 長尾 尚典さん

課題

所得の不平等

情報

外国人労働者・・・給与が最低賃金にちかい額で払われる
LGBT の人・・・LGBT を理解されず、差別がおこる

↓

仕事がしずらいため、所得が少ない

分析

外国人労働者への家賃補助
LGBT への理解をひろげることが重要

私たちにできること

自分たちからこの問題を理解すること、そして差別意識を持たず、認め合う心を養う

10 人や国の不平等をなくそう





グループ① ファシリテーター 田口 太陽 さん

課題

人口減少

- ・就職率の向上
- ・交通の便の向上
- ・観光客を増やす
- ・公共施設の安定
- ・その他の課題



私たちにできること

「SNS」の活用 <ねらい>

- ・地元の PR で移住を推進
- ・自分たちでも知らない地元の情報共有
- ・観光スポットの紹介
- 地元の人や移住した人の声を届ける





グループ② ファシリテーター 伊藤 彰紀さん

中津川市の現状
中津川は好き
ずっと住みたい

その一方で仕事がない
生活に不安を抱える
若者が多い

若者が意外に多い

現状を打破するために

・仕事を増やす → リニア活用、企業誘致



自分で作る(自営業)ことで、地元の大企業にお金を落とすのではなく、
地域にお金を落とすような仕組みを作る





グループ① ファシリテーター 田中 なつみさん

課題① ごみ問題

買い物袋有料化に伴い、ごみの量は減ってきてはいる
一方でポイ捨てが多かったり、再利用のために資源ごみを集めているのに分別ができていない

課題② 食品ロス

日本の食品ロスは世界トップクラス。
そこで、地産地消にフォーカス
輸送距離が短縮され、CO2の削減につながる

まとめ

すでに地域や企業が持続可能な生産消費について取り組んでいることがわかった。私たちの小さな積み重ねで環境や社会はかわっていく

グループ② ファシリテーター 伊藤 夏寧さん

課題

食品ロスを減らすために

情報

- ・日本国内では年間 612 万トンの食品ロス
- ・日本人一人当たりが毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てている
- ・Instagram で意見を聞いたところ、「捨てるのはいけないとわかっていても捨ててしまう」と多くの人が回答

対策

アプリ→フードシェアリングを活用(廃棄されゆく商品を割安価格で提供するサービス)
岐阜県では「岐阜食べきり運動」廃棄物の3Rを推進するため、小学校で体験学習

自分たちでできること

- ・SNS を通じて食品ロスについての情報を発信
- ・ポスターを作って人通りの多いところに掲示
- ・ご飯を食べ残さない

